

平成 29 年度事業報告及び決算

I 平成 29 年度事業報告

平成 29 年度は、森林保全・管理技術研究開発事業の後期五カ年計画の 4 年目として平成 29 年度森林保全・管理技術研究開発事業実施基本方針に基づいて、調査研究等を進めてきたところである。29 年度で終了した「地すべり対策技術の現状と今後のあり方に関する調査研究」及び「森林調査等におけるレーザ計測（航空・地上）活用手法の開発」については、その成果を普及啓発活動に活用することとして印刷製本したところである。

また、後期五カ年計画の成果を評価するために森林保全管理技術開発事業評価委員会を開催したところである。

公益性・中立性の高い技術指導の一環として、昨年に引き続き「国有林野測定事業における審査業務」を受託事業として実施するとともに、デジタル・アーカイブについては、外部からの閲覧システムの改良に資するために、本会賛助会員等による閲覧試行を開始したところである。

1. 総会・理事会等

(1) 総会

1) 通常総会

開催日 平成 29 年 6 月 7 日（水） 15:00～17:00

開催場所 日林協会館 3 階大会議室

議題 第 1 号議案 平成 28 年度事業報告及び収支決算報告

第 2 号議案 役員選出

第 3 号議案 その他

(2) 理事会

1) 第 1 回理事会

開催日 平成 29 年 5 月 23 日（火） 15:00～16:00

開催場所 日林協会館 4 階中会議室

議題 第 1 号議案 平成 28 年度事業報告及び収支決算報告

第 2 号議案 役員選出

第 3 号議案 運営委員会の廃止

第 4 号議案 その他

2) 第2回理事会

開催日 平成30年3月27日(金) 15:00~17:00

開催場所 日林協会館5階中会議室

議題 第1号議案 平成30年度事業計画(案)及び収支予算(案)
第2号議案 その他

(3) 森林保全管理技術開発事業評価委員会

開催日 平成29年8月21日(月) 14:00~17:00

開催場所 日林協会館4階中会議室

議事 (1) 森林保全管理技術研究開発事業(後期五カ年計画)について
(2) 森林保全管理技術研究開発事業の研究開発成果について
(3) WGの活動状況
(4) 森林保全・管理技術研究開発事業(平成29年度)実施計画について
(5) 森林保全管理技術研究開発事業(後期五カ年計画)の評価

2. 事業報告

(1) 森林保全・管理技術に関する調査研究、技術開発

本年度は、後期五カ年計画に基づき、下記の課題について調査研究を行った。

このうち、①、②及び⑤については平成29年6月で終了し、⑥及び⑦については新規課題として7月から開始したものである。

- ① 地すべり対策技術の現状と今後のあり方
- ② 高能率作業システムと森林基盤整備のあり方
- ③ 木材生産林における水土保全技術の確立
- ④ 里山における森林整備のあり方
- ⑤ 森林調査等におけるレーザ計測(航空・地上)活用手法の開発
- ⑥ 非皆伐施業の現状と今後のあり方
- ⑦ 森林調査手法の現状と今後のあり方

(2) 森林保全・管理技術に関する資料・文献の収集、整理保存及びその集積・分析

森林保全・管理技術デジタル・アーカイブのシステム開発が概ね完了したことから、本年度は外部からの検索機能利用システム実用化のために閲覧試行を開始したところである。

すなわち、利用者の利便性・安全性、保存された資料の機密性の保持等の観点から、閲覧システムの改良を行うことを目的に、本会賛助会員等に閲覧システムを利用して利用上の改善点等について意見を徴集することとしたところである。

また、地方の行政機関等からの資料・文献の収集をこれまで以上に促進することとし、関係機関への協力依頼を行ったところである。

(3) 森林保全・管理技術に関する情報提供、普及啓発

本年度は、「地すべり対策技術の現状と今後のあり方に関する調査研究」及び「森林調査等におけるレーザ計測（航空・地上）活用手法の開発」について報告書を作成し、印刷製本して普及啓発活動に活用することとし、(4)に記述してあるようにCPD研修会で教材として使用したところである。

(4) 森林技術者の専門技術の向上及び継続教育に関する支援

森林・自然環境技術者教育会(JAFEE)の森林分野CPDと連携して、次のCPD研修を実施したところである。

① 高能率作業システムと路網整備

日時：平成29年5月31日

場所：高知市：高知会館

講師・演題：

(1) 「急傾斜地における高能率作業システム」

小林洋司（東京大学名誉教授）

(2) 「スマートフォレストリーの可能性と具現化の課題」

仁多見俊夫（東京大学大学院農学生命科学研究科准教授）

(3) 「新しい架線集材技術」

近藤稔（名古屋大学大学院生命農学研究科助教）

(4) 「急傾斜地における路網作設技術」

壁村秀水（株式会社森林環境コンサルタント代表取締役）

② 地すべり対策技術/治山施設維持管理に関する講習会

日時：平成29年9月14日

会場：東京：日林協会館

講師・演題：

(1) 地すべり対策技術/治山施設維持管理報告書について

黒川 将 ; 敦賀屋研次郎（国土防災技術（株））

(2) 治山事業における地すべり対策技術の性能規定化の在り方について

川邊 洋（元 新潟大学）

(3) 干渉SAR技術を用いた地すべり変動箇所の抽出

土屋 智（静岡大学）

(4) 山地災害対策技術の現状と今後の課題～災害外力と脆弱性の観点から～

執印康裕（宇都宮大学）

(5) 木製治山施設の耐久性と維持管理について、

石川芳治（東京農工大学）

③ 「森林調査等におけるレーザ計測（航測・地上）活用手法の開発に関する調査研究」
講習会

日時：平成 30 年 1 月 29 日

会場：東京：日林協会館

講師・演題：東京：日林協会館

- (1) 「航空レーザ計測の最近の動向」
栗屋善雄（岐阜大学教授）
- (2) 「航空レーザ計測による森林資源分析」
大野勝正（アジア航測株式会社）
- (3) 「木材供給量情報整備」
日比野基宏（岐阜県森林組合連合会）
- (4) 「手持ちカメラ、UAV 写真計測を用いた森林資源解析」
北本 拓（アジア航測株式会社）
- (5) 「航空レーザ計測データを活用した路網計画」
鈴木秀典（東京農工大学）
- (6) 「地上レーザ計測による森林調査」
加藤 頤（千葉大学助教）

(5) 科学技術についての技術者、研究者及び教育者等との連携による調査研究及び提言活動

(1) の調査研究、技術開発事業を通じて技術者、研究者及び教育者等との連携による調査研究活動を行ってきたところである。

(6) 行政施策又は社会貢献に資する公益性・中立性の高い調査研究及び技術指導

森林調査、測量設計等、その成果の技術的妥当性が社会的に多大な影響がある事案について中立的な立場で審査・保証等を必要とする場合には、研究所がこれに対応することが出来るよう体制の整備を図ることとし、その実態を把握に努めてきたところである。

この中で、「国有林野測定事業における審査業務」については、関東森林管理局管内における審査業務を測量業者からの受託業務として実施したところである。